

早坂 暁

長崎屋
日記

びいどろ
で
候さう

壺





びいどろ
で
候せう
〈一〉

早坂
暁

早坂 暁（はやさか あきら）

昭和4年、愛媛県生まれ。日本大学芸術学部卒業。出版業、生け花評論などを経てシナリオライターとなる。「修羅の旅して」(NHK)でモンテカルロ国際テレビ祭脚本賞、「続・事件」シリーズ(NHK)で芸術選奨文部大臣賞受賞。代表作に「天下御免」「冬の桃」「夢千代日記」「花へんろ」「田空」「失われし時を求めて」「山頭火」(以上NHK)、「空海」「天国の駅」など。著書に「ダウンタウン・ヒーローズ」「華日記ー昭和生け花戦国史(新潮社)」「公園通りの猫たち(講談社)」「天下御免」(大和書房)、「田空への旅」「山頭火ー何でもこんな淋しい風ふくー」(日本放送出版協会)などがある。

びいどろて候そう

——長崎屋夢日記——

〈一〉

平成二年六月八日 第一刷発行

著者……………早坂 暁

発行……………日本放送出版協会

〒100 東京都渋谷区宇田川町四一

電話 〇三—四六四—七三一

振替 東京一—四九七〇—

印刷……………株式会社 光邦

株式会社 大熊整美堂

製本……………株式会社 石毛製本所

●落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

©1990 Akira Hayasaka Printed in Japan

ISBN4-14-005153-1 C0393

〈目次〉

まえがき◆地球規模の時代劇

2

一、ナポレオンで候^{ソロ}(上の巻)

9

二、ナポレオンで候^{ソロ}(中の巻)

53

三、ナポレオンで候^{ソロ}(下の巻)

99

四、なんで津軽じょんがら(上の巻)

149

五、だから津軽じょんがら(下の巻)

199

◆ドラマのなかに江戸がいきいき〈田中優子〉

259

◆まえがき◆

地球規模の時代劇

歌麿の浮世絵に『びいどろを吹く女』がある。

細長いガラス管の先が、じょうごふうになっていて、息を入れて吹くと、ピコン、パコンと音が出る玩具だ。

『びいどろ』のもとの意味は硝子^{ガラス}。江戸時代には、もつとも異国的なもののひとつだった。江戸の女たちは、色のついた『びいどろ』を夢見がちに吹いてみて、ピコン、パコンと不思議な音に異国をしのんでみたのだろう。

時代劇がときおり、発作的に望まれるときがある。ちょうど今がそのときにあたっていて、たくさん時代劇がつくられているのだが、その時代劇は実に陳腐そのもの。絵に描いたような勧善懲悪劇がまかり通っている。

いや、時代劇は定型そのものだから安心なので、悪人は登場してきたときから悪人とわかり、ドラマの展開も簡単に予想がつくのがよいといわれたりする。とんでもないまちがいだ。そんな安心ドラマが欲しくて、時代劇が発作的に望まれるのではないと思う。

では、なぜか――。

時代劇の風俗習慣、衣装所作は、日本人の素顔なのである。

明治以後、着慣れず、似合わない洋服を身にまとい、西洋文化のまねごとを繰り返してきた日本人は、発作的に洋服を脱ぎ捨てて、日本人の体にぴったりの着物を着て、日本人にぴったりの家に住み、日本人にぴったりの思いで行動したくなるのである。

いつてみれば時代劇を見ると、わが家へ帰った気分になってしまふのだ。外出から帰ってきて、洋服を脱ぎ、ホッとひと息つく気分なのだ。

まったく、洋服を着た日本人は、どこか見劣りがする。だが、着物を着た日本人は、実にサマになっている。腰を落とした歩き方も、着物だとぴったりののだ。そうだろう、短足、胴長の日本人に、どういう衣装が似合うのか、長いあいだ知恵をしばってできなかったのが着物なのだから。

時代劇には、自然に発育してきた日本人の原型がある。いや、その原型が望まれているわけだ。時代劇を見て、どことなくホッとするのは、久しぶりに故郷に帰った気分似ているのだ。

それにしても、日本でつくられる時代劇は、極端な孤立劇である。

鎖国という言葉は、あとでつくられたもので、確かに江戸時代は他国との交易は極端に制限はされていたが、長崎の出島を「窓」としての世界との交流は、

けっこう活発だった。

まるで隔絶された形で日本は生きてきたわけではない。また日本は孤立して孤独に生きていけない国なのだ。

それなのに、なぜ地球規模の時代劇がきわめて少ないのか。

日本史だけの時代劇、クローズアップだけの時代劇は、もうごめんである。政治的には閉塞へいそくされていたが、文化的には好奇心あふれた江戸の時代、地球規模の時代の波が押し寄せはじめた文化文政の時代。なんと現代と照応するところが多いことか。

さて、『びいどろ』は当時、綺麗きれいな女という意味にも使われたそうだ。

びいどろで候そろ
〈一〉

〔登場人物紹介〕



かおるの母
お鈴
(山田五十鈴)

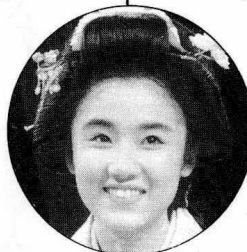
長崎屋女将
かおる
(八千草薫)



平賀源内
(山口崇)



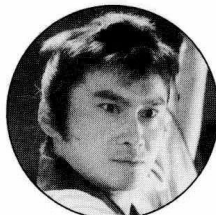
オランダ商館長
ヘンドリック・ドーフ
(ウイレム・レメンク)



お蘭
(原田知世)



毬夜安奈
(中川安奈)



剣豪・辺見鋭之介
(萩原流行)



浮世絵師・写楽斎
(阿木燿子)



長崎屋料理人・ぶり助
(結城 貞)



長崎屋番頭・飛太郎
/ 鼠小僧
(池畑慎之助)



北町奉行格別同心
半田半蔵
(財津一郎)



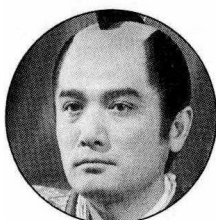
ナポレオン
(細川俊之)



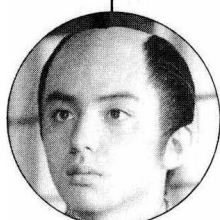
遠山左衛門尉
(河原崎長一郎)



尺八屋・丸太屋尺三
(マルタ)



徳川家斉
(細川俊之)



遠山金四郎
(保阪尚輝)



大黒屋光太夫
(坂上二郎)



老中・水野忠成
(内藤武敏)



オランダ商館の医師
ヘンボルト
(石丸謙二郎)



医者・柳田玄々
(寺田 農)



お百
(楠トシエ)



滝沢馬琴
(日下武史)

●NHK新痛快時代劇

「びいどうで候」制作スタッフ

作……………早坂 暁
音楽……………MALTAマルタ
タイトル画……杉浦日向子
監修……………西山松之助
考証……………鈴木敏三
衣裳考証………小泉清子
殺陣……………林邦史朗
制作……………音成正人
デスク……………浅野加舞子
演出……………重光亨彦
……………原嶋邦明
……………外園悠治
……………小見山佳典
……………榎戸崇泰
……………若泉久朗
……………柳川 強
美術……………田嶋宣助
技術……………曾我部宣明
音響効果………小林 稔
……………小瀬洋介
……………岩田紀良
……………矢島 清
……………石川恭男

●キャスト

かおる……………八千草薫
お蘭……………原田知世
お鈴……………山田五十鈴
平賀源内………山口 崇
秘夜安奈………中川 安奈
写楽斎……………阿木燿子
刃貫鋭之介……萩原流行
飛太郎(鼠小僧)池畑慎之介
ぶり助……………結城 貢
でぶ助……………高野 嗣郎
ちび奴……………片桐光洋
雀……………市川夏江
ドウフ……………ウレムレリダ
ヘンボルト……石丸謙二郎
遠山左衛門尉……河原崎長一郎
遠山金四郎………保阪尚輝
半田平蔵……………財津 一郎
ナポレオン………細川 俊之
徳川家斉……………細川 俊之
水野忠成……………内藤 武敏
松平保美……………原 保美
お美代……………南海里美
丸太屋尺三………マルタ

勇ちゃん……………後藤勇一郎

大ちゃん……………楠原 大

徹ちゃん……………落合 徹也

滝沢馬琴……………日下 武史

お百……………楠トシエ

大黒屋光太夫……坂上 二郎

麗花……………馮 智 英

美芳……………華村りこ

津軽屋……………鶴田 忍

蔵番頭玄助………鈴木正幸

大槻玄沢……………八名 信夫

柳田玄々……………寺 田 農

ナレーシヨン……島倉千代子

●放送記録(NHK総合テレビ・夜8時〜8時45分)

第一回 ナポレオンで候(上の巻)平成2年4月11日

第二回 ナポレオンで候(中の巻)平成2年4月18日

第三回 ナポレオンで候(下の巻)平成2年4月25日

第四回 なんて津軽じよんがら(上の巻)平成2年5月2日

第五回 だから津軽じよんがら(下の巻)平成2年5月9日

●本書には、早坂暁氏作のオリジナルシナリオを収載しました。放送内容と一部異なる点がありますことご了承ください。

一、ナポレオンで候^{ソロ}(上の巻)

現在の大東京

超高層ビルが群立している。ビートのきいたロックの音楽に合わせて、「1990」の数字が、ぐんぐんスピードをあげて減少していく。……「1980、1979、1978……」

古地図

極彩色の古い江戸地図。数字は「1817」になって止まった。そして、極彩色の古い世界地図。日本は右のはずれに、ゆがんだ列島として描かれてある。その名は、J P A N G。

美しい女の声が聞こえる。

女の声

おらんだに行きたしと思えど……。
そして、それは歌になった。

女の声

おらんだは あまりに遠し
せめて びいどろ など吹きて
おらんだの音など……聞きたいの
ビードロを吹く音。



ここはオランダの街

十八世紀のハーグの街角。海に面したオランダの街。その広場に、巨大な音楽ボックスがある。オランダ人が、音楽箱のハンドルを回している。飾ってある人形たちが、音楽を演奏しはじめた。——楽しい。おらんだ文茶々。なんと、人形たちは人間だ。それも、チョンマゲを結った日本人が、オランダ服を着て楽士になっている。マルタ扮する楽士はサキソフォン、あとはG—クレフの面々が、バイオリン、チェンバロ、手風琴などを、人形ぶりで演奏する。さあ、ビードロマーチだ。

『びいどろで候・長崎屋夢日記』と、タイトル文字も楽しく——。ハーグの街角に、ビードロの音楽は流れて——。

長崎屋かおる・お蘭の母娘、混血児の毬夜、女浮世絵師の写楽斎、オランダ芸者ちび奴らが、曲に合わせて踊っている。

パタツと音楽が止まった。登場人物たち、人形となって停止する。

……おらんだへ行きたしと思えど。

お蘭 かおる
おらんだは、あまりに遠し。

毬夜 せめて青き着物など着て……。

ハーグの街角で

目の覚めるような青い色の着物を着て、お蘭が登場する。かおるも、毬夜も、写楽斎も、次々に青い着物を着て登場。

お 蘭　せめて青き着物など着て……。

かおる　隠れんぼなど、せん。

お 蘭　両手で目を覆う。

お 蘭　もう、いいかい。

散っていく、かおる、毬夜たち。

かおる　まあだよ……。

お 蘭　……もういいかい。

写楽斎　……もういいよ。

お 蘭　……。

そつと目をあけた。見回すが、ハーグの街角に人影はない。

お 蘭　……誰も、おらんた。

ニコツと笑うが、すぐに悲しげな顔となった。再び、街頭の音楽箱の人形楽士たちの演奏が始まる。



タイトル

キャスティングの名が次々と楽しく登場。

長崎おくんち

長崎の祭。ドラゴンが空に舞い、踊る。ドラの音が威勢よくとどろく。

長崎大夜景

きらめく一千万ドルの夜景。ポーッ！と汽笛たち。

「あーる晴れた夜……」

『蝶々夫人』の一節が聞こえてくるが、一転して――。

「長崎、長崎は

きのうは雨だった……」

長崎出島

出島の全景。ミニチュアである。その出島に、巨大な足が踏みこむ。出島のミニチュアの中に立っているのは、オランダ商館長ヘンドリック・ドゥーフ。



ドウーフ オランダ出島の商館長、ヘンドリック・ドウーフです。これより、江戸の将軍様にごあいさつに行きます。江戸まで、千三百キロメートル、たいへんです！

オランダ人の行進

オランダ商館の一行が行く。きらびやかなオランダ衣装^{いふくそう}。そして、進物の品々をのせた籠^{かご}。ドウーフは馬に乗っている。

そして先頭には、長崎奉行をやめたばかりの遠山左衛門尉^{じょうむ}が同行して歩いている。そのうしろを、息子の遠山金四郎が歩いている。並んで歩いているのは、オランダ商館の医師ヘンボルト。

ヘンボルト 江戸は久しぶり、ですか。

金四郎 ヘンボルトさん、大した日本語ですねえ。

ヘンボルト 私はオランダ国籍ですが、血の半分、母親は日本人だから。

金四郎 ヘンボルトさんみたいなのはかりだと、通訳の通詞役^{つうし}などいませんよねえ。

父の遠山左衛門尉、振り返って見る。

ヘンボルト お父さんが、にらんでおりますよ。

金四郎 父は私を、オランダ通詞に仕立てあげようとしています、私は、語学はだめです。全然、才能がありません。